

編集後記

2020 年の 12 月号をお届けします。今年はコロナに始まり、コロナで終わる年になりました。最初はちょっと嫌な予感がするだけでしたが、まさかここまでになるとは夢にも思っていませんでした。中国の劉慈欣という SF 作家による「三体」という長大な作品(三部作ですが、日本では第二部まで翻訳が出されています)が世界的に話題になりました。これは、高度な文明を持つ三体星人が 400 年後(!)に地球に攻めてくるとことを知った人類がこれに立ち向かうというものです。その中の一節に、“三体星人から見れば、我々地球人は虫けらも同然で、勝ち目は絶対にない”と嘆く友人の科学者に対し、主人公の 1 人の警察官がイナゴの大群で壊滅状態になった畑を見せ、“イナゴは俺たちにとっては虫けらだよな。でもこのざまは何だ？俺たちはこの虫けらに勝ったためしはあるのか？”と迫るくだりがあります。確かに、イナゴにせよコロナにせよ、我々が制御不能なものはまだまだ沢山あるということは肝に銘じなければなりません。

そういえばハリウッド映画で、地球に攻めてきた“たこ足”の宇宙人が最終的には地球のウイルスにやられて全滅するというものがありました。ウイルスは宇宙人でも手強いのです。予防接種が普通にできるようになるまでは、イナゴの大群に立ち向かうがごとくに、コロナと向き合うしかないのが辛いところです。

今月号の特集は、“日常診療における角膜内皮”，総説は“小児の網膜ジストロフィ”です。シリーズは、手術のコツとトラブルシューティング：緑内障編の 5 で、今回は、suture trabeculotomy です。投稿論文も 5 編と増えてきました。我々が立ち向かう眼疾患も時に無力感を感じるほどその壁は厚いものです。でも今度は我々が逆にイナゴとなって、この強大な壁に丸となって少しずつ風穴を開けていく努力を続けなければなりません。新年が良い年であることと皆様のご多幸を祈念しつつ 2020 年の『眼科』を締めさせていただきます。

(富田剛司・記)

編集：富田剛司・坪田一男・後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均
編集顧問：所 敬・小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治・飯島裕幸

「眼科」 第 62 巻 第 13 号 12 月号

2020 年 12 月 5 日発行 (毎月 1 回 5 日発行)

定価 (本体 2,800 円 + 税)

年間講読料金 定価 (本体 42,100 円 + 税)

[年間 13 冊 (臨時増刊号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。